

Nara Women's University

『人間文化研究科年報』投稿要領

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学大学院人間文化研究科 公開日: 2019-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 奈良女子大学大学院人間文化研究科 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/5247

『人間文化研究科年報』 投稿要領

(1) 投稿ができる者

1. 奈良女子大学の教員
2. 奈良女子大学博士研究員
3. 人間文化研究科博士後期課程に在籍する学生
4. ポストク事業などのために一時的に別の身分に転じていて、終了後博士研究員に戻る予定の者で、事実確認ができた者
5. その他総務委員会で投稿を認めた者

なお、論文のファーストオーサーが投稿資格を持つ奈良女子大学の教員、人間文化研究科博士後期課程の学生の場合、共著者に博士前期課程の学生がいても、投稿を認める。

(2) 連続投稿の制限

1. 教員の連続投稿は3回までとする。
2. 博士研究員の連続投稿は2回までとする。

(3) 投稿できる原稿

投稿できる原稿は、学術論文、研究ノート、書評、解説または資料とし、未発表論文の初出原稿に限る。

(4) 原稿の分量等

1. 原稿は、刷り上がり10頁以内、図表を含む場合は16頁以内とすること。
2. 和文の場合は、横書きの場合11ポイントで43字×38行でA4用紙10枚以内、縦書きの場合、31字×26行2段組A4用紙10枚以内（400字詰原稿用紙換算で40枚以内）とし、学術論文、研究ノートには200～500語程度の欧文の要約（アブストラクト）を付けること。
3. 欧文の場合は、A4用紙43字×38行で8000語以内とする。
4. 原稿には、欧文目次のために、欧文タイトルを付記し、全体として完成原稿を提出すること。
5. 図表を使用する場合、仕上がりが以下のかたちになることに留意すること。
紙面はB5版、本文は9ポイント、注は8ポイント。
余白は、紙面の左右は20mm、上部は25mm、下部15mm。

(5) 注のつけかた

脚注は避け、章末注、あるいは文末注のかたちで一括して記入すること。

(6) 図版使用

1. 図版をつける場合には、明瞭な図像の版下を準備すること。
2. 図版使用の場合に生じる著作権の問題については、執筆者の責任において対応すること。

(7) 原稿において、特別の指定（ゴチ、イタリック（斜体字）、上ツキ、下ツキなど）が必要な場合には、執筆者自身が指定すること。

(8) 外国語の原稿

外国語の原稿の場合には、その外国語を母国語とする者、あるいは当該外国語による論文作成指導に熟練した者による原稿のチェックを受けること。

(9) 提出は以下のとおりとする。

1. 提出期間：9月上旬～9月末日（9月末日が休日の場合はその前日）17時

締切日時を過ぎたものは、いかなる理由があっても受理しない。

2. 提出は2部（A4版 原本1部、コピー1部）

a) 『年報』はB5版であるため、実際には紙面は小さくなることに留意すること。

b) 原稿は印刷したものと、原稿ファイルが入ったフラッシュメモリ、CD-Rなど電子媒体を提出すること。電子媒体は後日返却する。

c) 図版などを使用する場合には、大きさ、位置がわかるようにB5版での配置を示すPDFファイル、あるいは大きさ・位置を指示したものを合わせて提出すること。

3. 「年報投稿届」「リポジトリ登録同意書」を合わせて提出すること。

(10) 投稿された原稿については、編集委員会で検討のうえ、11月下旬までに執筆者に掲載可否について連絡する。

(11) 校正段階において、大幅な修正をすることがないように、完成原稿とすること。

内容にかかわる修正は、再校以降は認めない。

校正の予定は以下のとおりである。校正の期限は守ること。

12月下旬：初校原稿渡し

1月上旬：初校校正の締切

1月下旬：再校原稿渡し

2月上旬：再校校正の締切

校正原稿が遅れた場合には、掲載できないこともある。

(12) 掲載論文の著作権は、著作者に帰属する。ただし、投稿者は、投稿した原稿が人間文化研究科年報に掲載された場合には、複製権（著作物を印刷、写真、複写等の方法により有形的に再生する権利）及び公衆送信権（著作物をサーバー等に蓄積した情報を公衆からのアクセスにより自動公衆送信等する権利）を本学に許諾するものとする。

なお、第三者から著作権侵害に関する問題が発生した場合には、投稿者が責任をもって対応するものとする。

* 投稿要領が守られていない原稿、編集委員会で掲載が適当ではないと判断した原稿については掲載しないので、博士後期課程の学生、博士研究員が投稿する場合、指導教員が協力して執筆者が完成原稿を投稿できるように留意すること。